

関 清 秀

仙台の大会は、私の予想していたものとはかなりの隔りがありましたけれども、今年の様な会の持ち方も又悪意義ではなかったと思われます。未だ第一回目なので、仮令様々の不滿意点があつたにしても、それは今後あらためるとして、もう暫らくの間は今年の形式を踏襲してみたら如何でしょう。早急に変更を加えることをしないで、焦らずにもり育て、ゆけば、その中に自ら最も相応しい形式と内容とが作られてゆくのではないのでしょうか。とかく農村社会学という領域から考えがちなりますが、テーマの選択も、研究討論の方法も、できるだけ広い分野から参加できる様なものにして、文字通り村務社会研究会にしたいものだと思います。

なお、社会学会大学に引き続いて三日間に亘るといふことは、種々の点で負担が重過ぎるのでないかと考えられました。

(北海道大学)